

春雨十首

令和三年二月八日

大中臣 正比呂

壹 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

大府の鈴女十子め 踊り待ちとぞ

陸 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

いまだ越後はせんしゅう 千秋の雪

貳 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

陽田ももか 桃花にちやうめい 長命桜

漆 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

嬉野里うれしのはなれ 汝の湯けむり

参 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

加洲の空に お稽古帰り

捌 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

道後の里は 小唄の響き

肆 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

遠き蝦夷地は 牡丹の吹雪

玖 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

博多の空は 小春の里か

伍 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

嬉野空うれしのそらにのだけ 野点の香り

拾 雨や止みて初音に惚ぶ梅の枝

富岳の里は 桜待ちとかや

